

2025 年度境港市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

境港市の農地は、湿田が多くまた水田面積が小さいため、担い手となる稲作農家はおらず、農業者の高齢化・労働力不足等による耕作放棄地・不作付地の拡大が大きな問題となっている。

田で栽培されている野菜は、西日本有数の産地となっている白ねぎが主で担い手農家が栽培している。しかし、市内には畑地の不作付地が多く残っており、畑地の再生が優先され、水田の畑地への転換までには至っておらず、作付面積は拡大していない。また、水田での作付は畑地に比べ排水対策等に係る経費が大きくなっている。

農地中間管理事業については、農地の出し手と受け手のマッチングによって、新たな不作付地の発生抑制・不作付地の解消に活用する。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市を含む弓浜半島は西日本でも有数の白ねぎの産地となっているが、近年の出荷量は担い手農家の減少などの要因で減少しており、安定的な収益性を確保するためにも産地でまとまった出荷量を確保する必要があると認識している。

そこで令和3年度に若手農業者や農協、米子市や鳥取県とともに白ねぎのブランド力強化に向けた研究会を発足した。その中の目標として西日本での生産量1位を目指すこととなった。令和5年度に、境港市・米子市が共同で弓浜地区の白ねぎ産地の生産振興プランを策定し、目標に向け取り組んでいくところである。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

推進品目である白ねぎについては、担い手農家により畑地を中心に広く生産されているが、一部に水田野菜としての生産がある。

市内には畑地の不作付地が多く残っており、水田での作付は畑地に比べ排水対策等に係る経費が大きくなっている。今後、農地の集積・集約化などの必要性も認識しているが担い手農家の不足といった問題もある。

そこで、水田の利用状況の現地確認を行い、水稻作に活用される見込みがない水田を把握し、その後、畑も含めた集積・集約化が図られる見込みのある水田地域に対し、担い手農家等の意見を募りながら畑地化すべきか探っていき、生産拡大を図っていく。

境港市は集団転作を行っていないことからブロックローテーションも未実施。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

小規模農家による保有米生産が主体で、小区画の湿田が多いことなどから農地の集積、担い手の育成も進んでいない状況である。高齢化、兼業化の進展とともに、不作付地の増加も懸念されるが、水田機能を維持していくため、現在の作付面積の維持を図る。

(2) 高収益作物（園芸作物等）

推進品目である白ねぎについては担い手農家により畑地を中心に広く生産されている

が、一部に水田野菜としての生産があり、引き続き生産拡大を支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり